

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 7月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1072300138
法人名	特定非営利活動法人かがやき友の会
事業所名	共に生きる老人の家 かがやき入野ホーム
所在地	高崎市吉井町小暮568-1 (電話) 027-388-5415

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年6月25日

【情報提供票より】(平成21年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成8年12月29日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	10人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.1人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨瓦葺き2階建て造り		
	2階建ての	1階	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,200円/日	円	その他の経費(月額)	水道光熱費 250/日
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有		有りの場合 償却の有無	退去時に全額返済
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1,000円/日				

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はるな生協、高崎中央病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、鏑川の左岸と観音山丘陵の東端に挟まれた広々とした静かな農村地帯にある。2年前に理念を見直し、「住み慣れた家、住み慣れた地域、心の通った友達が住む町で生活したい」そんな当たり前の望みを叶えるために、地域住民と連携して老後が安心して暮らせるための町作りを目標に日々支援に取り組んでいる。目標実現のために、福祉用具を展示した施設見学会や認知症に関する介護教室を開催したり、昨年度から「納涼祭」の名称を「地域ふれあい祭り」に変えて屋台を囲み地域の人々も参加し充実した一時を過ごすなど、地域との交流促進に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果のコピーを全職員に配布し職場会議で話し合い、テレビを入居者の目線に合わせた位置に置き換えたり、外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に記載する等、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員が分担記入後職場会議で話し合い、管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、事業執行状況や運営体制について報告し、意見交換を行っている。意見交換で出された、新設の幼稚園との交流や公民館での介護教室の開催など意見を活かした事業所運営に取り組んでいる。今後、自己評価や外部評価の結果を議題に加え、2ヶ月に1回の開催を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所からの連絡事項や家族からの要望事項などを記載した用紙を入れる「連絡ホルダー」を各居室に設置したり、家族会の開催や法人の総会への出席、家族も参加する一泊旅行への誘いなど機会あるごとに家族の参加をもとめ、家族との信頼関係を大切に事業所運営に取り組んでいる。また、苦情や要望等何でも言える機会作りを取り組み、「お墓参りに行きたい」「甘樂のお菓子屋へ行きたい」等、家族から意見が出て運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の総会や清掃活動に参加したり、小学校の運動会を見物したり、事業所主催の「地域ふれあい祭り」や福祉用具を展示した施設見学会、音楽家の訪問時等に地域の人達に案内を行ったり、地域のさまざまなボランティアや幼稚園児・小学生の来訪など地域との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を2年前に見直し、「住み慣れた家、住み慣れた地域、心の通った友達が住む町で生活したい」という目標を掲げ、認知症になった人やその家族が安心して暮らせる町作りを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝の申し送り時や職場会議で話し合い、確認合っている。新規採用職員に理念と目標を説明し、家族や友達が住む地域で老後も安心して暮らしたいという望みを実現させ支えるための支援に向け、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の総会や清掃活動に参加したり、事業所主催の「地域ふれあい祭り」や福祉用具を展示した見学会、音楽家の訪問時に、地域の人達に案内をしている。地域の様々なボランティアを受け入れ、幼稚園児や小学生の来訪、小学校の運動会の見物等、地域との交流促進に努めている。散歩時に田畑で働く人と会話をしたり、近隣の方がホームへ来てお茶を飲んで頂く等立ち寄りやすいホームを目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が分担記入後職場会議で話し合い、管理者がまとめている。外部評価結果は、コピーを全職員に配布し、職場会議で話し合い、テレビを入居者の目線に合わせた位置に置き換えたり、外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に記載する等、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を昨年度は4回・今年度は1回開催し、事業所執行状況や運営体制等について報告し、意見交換を行っている。意見交換で出された、新設された幼稚園との交流や公民館での認知症に関する介護教室の開催など、意見を活かした事業所運営に取り組んでいる。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回は開催し、自己評価や外部評価の結果を議題に加え、意見等を反映した運営に取り組まれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種申請書の提出時や事業所主催の催し物の案内状持参の際に、相談や指導を受けている。また、事業所主催の「地域ふれあい祭り」の屋台の出店状況や地域の人達との交流風景を市の広報誌に掲載するなど市との関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態や暮らしぶりを報告し、面会されない時や緊急時は電話で報告している。法人の総会に家族が出席したり、年2回家族会を開催したり、「かがやき友の会ニュース」に行事開催状況を掲載したり、一泊旅行に家族も参加する等機会ある毎に家族の参加を求め、信頼構築に努めている。冬物から夏物への衣替え等事業所からの連絡事項は、各居室に設置している「連絡ホルダー」を通して行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望等が入られる「連絡ホルダー」を各居室に設置している。また、苦情箱設置や苦情受付簿の整備、総会への出席や家族会の開催など家族の意見や提案を表す機会を設けている。「お墓参りに行きたいと言っている」、「甘楽のお菓子屋さんに行ってみたいと話している」等意見が出て運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の人にとって異動は好ましくないので、極力抑制している。職員が離職する場合には余裕を持たせ、入居者が不安を持たないように「勉強に行きました」と話し、家族には面会時に説明しダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県高齢者介護総合センターの年間研修計画に基づき、新人研修、3年目研修、リーダー研修等に参加し、研修報告書を提出し、研修資料のコピーを全職員に配布している。市主催の研修会や消防署の講習会に参加し、新入職員には日常業務を通じた「自己チェック」を行い指導するなど職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の大会では毎年事例発表を行い、職員相互派遣研修や各種研修会に参加している。また、社会福祉協議会や「認知症の人と家族の会」が主催する研修会に参加した際にも交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との話し合いの後、見学や体験宿泊で入居者とお茶を飲む等事業所の雰囲気に馴染めるよう努めている。また、事業所のデイサービスを利用してから入居する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、年中行事や昔の歌を教わったり、調理の下拵えや洗濯物たたみ等を行う等共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や過去の思い出を聞いたり、日頃の会話を大切に実現可能なことを実施できるよう支援している。意思表示の出来ない入居者は、表情や家族や友人から情報を得るなど、本人の気持ちに添う支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症の人のためのケアマネジメント(センター方式)を活用し、本人や家族の要望や意向の把握に努め、毎月開催する職場会議で話し合い、介護計画を作成している。介護計画を家族に渡し、説明の後署名を頂いている。職場会議に参加できない職員は、カンファレンス用紙に入居者毎の意見を記載し提出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直しは6ヶ月毎であるが、毎月のモニタリングを実施している。退院時や状態変化時は、介護日誌や個別のケア記録に記載した内容を参考に、その時の状態に対応した見直しを職員会議の意見を反映し行っている。家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「よみがえる記憶を訪ねて思い出の場所へ」と、入居者の思い出の地を訪問している。例えば、全職員と全入居者が、入居者の新潟にある実家の墓参りをする等、生まれ育った場所の訪問をしている。また、通院時の送迎や受診時の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、原則家族対応であるが車椅子利用者は職員が送迎し、病院で家族に引き継ぎ必要時は医師との情報交換を行っている。ホーム協力医が毎月1回往診し、24時間対応の協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合に於ける対応方針」「看取りに関する指針」を作成し、契約時に説明を行い、医療行為を伴う時点で入院対応としている。入居者の状態変化に応じて、本人・家族・関係者と話し合い、ホームで出来ることを見極め対応している。ターミナルに対してチーム会議で話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室内から鍵をかける入居者もおおり、入室は声かけとノックを行っている。申し送り時に不都合な場合はインシヤルを使用したり、「かがやき友の会」に掲載する写真は家族の了解を得る等プライバシーの確保に努めている。記録等の個人情報は戸棚に保管され、外から見えないようになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるが、入居者の意向に添った入浴や買い物、個々の入居者の希望に添った散歩やドライブを行っている。夕方不穏になる入居者には散歩で気を紛らわせるなど、日々その人に合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食材の皮むきなどの下拵えを職員と一緒にしたり、テーブル拭きや箸をセットしている。状態にあわせてミキサー食や刻み食を提供したり、ふきのとう入り焼き餅や近隣の方から頂いた柏の葉で柏餅作り、竹の子ご飯等季節料理を作り、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、高崎市役所屋上レストランや回転寿司等にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	機械浴を整備している。週3回の入浴を原則としているが、毎日入浴している入居者もいる。入浴拒否者は現在はいないが、工夫し対応していた。ゆず湯、菖蒲湯、ミカン湯等楽しくゆっくり入浴出来る支援に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除や居間の掃除を手伝ったり、落ち葉かきをしたり、車椅子利用者はテーブル拭きや箸を配ったり、元クリーニング業の入居者は洗濯物たたみを指導する等得意分野を自発的に行い、職員は「ありがとう」の感謝の言葉をかけ、皆で助け合いながら共同生活をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物を兼ねた散歩をしたり、外食行事や季節の花を求めてドライブをしたり、「よみがえる記憶を訪ねて思い出の場所」を訪問する等、計画的な外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかける弊害を理解し、日中玄関や門扉に鍵をかけない支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時は、消防署や職員個人の携帯電話、隣接しているデイサービス事業所や小規模多機能事業所に同時通報できる装置を備えている。運営推進会議で災害時の協力を依頼し、町主催の消防訓練に参加している。年2回の消防訓練を実施する消防計画が作成されているが、実施されていない。	○	消防署の指導を受け、消防計画に沿った避難・消火訓練を行うと共に、災害時に近隣の人達の協力が得られるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を毎回記録し、栄養バランスを考慮し前の料理と重複しない料理を心がけている。ミキサー食や刻み食等特別食の入居者は、日誌に摂取割合を記録している。水分摂取は1日1500ccを目安に、記録して水分量の確保を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブル等にあじさいなど季節の花が活けられている。県展に入選した入居者の油絵がホールの壁に掛けられたり、習字の短冊が階段に飾られている。また、テーブルやソファが居間やベランダなど数ヶ所に配置され、思い思いに過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた箆箆や椅子等が持ち込まれ、仏壇を持ってきている入居者もいる。本人が作った壁掛けや庭で咲いていた花が活けられ、家族や配偶者など故人の写真が飾られる等、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。		